◆団体基本情報

No.	7	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市医療センター		
所在地	〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1						
電話番号	022-252-1111		FAX番号	022-252-0454		所管 部局	健康福祉局 医療政策課
団体ホームページ	https://www.openhp.or.jp/						
代表者職氏名	理事長 亀山 元信			設立年月日	昭和49年12月5日		
基本財産等	10,000 千円		市の出捐額 (割合)	6,000 千円 (60.0 %)			
設立目的	仙台市及びその周辺の地域住民の公衆衛生の向上と包括医療の推進を図り、もって住民の健康と福祉の増進に寄与すること。						
事業概要	公衆衛生に関する指導相談事業。医学及び医療の向上に関する調査研究。オープンシステム病院、診療所及び介護老人保健施設の開設による公益的医療。生活習慣病の検診事業。介護保険法による各種サービス事業。その他この法人の目的達成に必要な事業。						
評価対象決算期	令和6年4月1日～令和7年3月31日						

◆人員等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	80.0 歳	75.0 歳	76.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,169 千円	6,433 千円	6,492 千円
④職員数	798 人	795 人	812 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	4 人	4 人	3 人
⑤職員平均年齢	41.2 歳	42.1 歳	41.4 歳
⑥職員平均年間給与	5,881 千円	5,798 千円	5,884 千円

◆主要財務データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①当期経常増減額	523,963 千円	15,906 千円	△ 115,767 千円
②当期経常外増減額	142 千円	△ 669 千円	190 千円
③当期一般正味財産増減額	523,983 千円	15,237 千円	△ 115,577 千円
④一般正味財産期末残高	4,045,056 千円	4,060,293 千円	3,944,715 千円
⑤指定正味財産期末残高	3,171,651 千円	2,874,434 千円	2,726,886 千円
⑥正味財産期末残高	7,216,707 千円	6,934,727 千円	6,671,602 千円
⑦長期借入金残高	7,881,100 千円	7,343,700 千円	6,806,300 千円

◆市の財政的関与

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①市からの補助金	759,043 千円	766,331 千円	757,749 千円
②市からの委託料 (指定管理料含む)	158,393 千円	26,019 千円	7,143 千円
③市に対する収入依存度	7.76 %	6.93 %	6.63 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和6年度事業費
仙台オープン病院	オープンシステム（開放型病院）による登録医との共同診療（地域医療支援病院）。人間ドックや脳検診等，市町村・事業所を対象とした大腸がん検診を実施。（人間ドック・健診施設機能評価認定） 広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして二次救急を中心とした救急事業（365日24時間対応）。管理型研修指定病院としての研修医受入れ。地域医療推進事業（市民医学講座・地域健康講座の開催，健康教育パンフレット発行）。看護学生に対する就学資金貸付事業。	10,700,789 千円
茂庭台診療所	内科・小児科の外来診療	23,195 千円
茂庭台豊齢ホーム	介護保険制度の施設入所の他，短期入所療養介護，通所リハビリテーション，通所介護，訪問リハビリテーションを実施	930,665 千円
居宅支援センター豊齢	介護保険制度の居宅介護支援事業所としてケアプラン作成等ケアマネジメントの展開を実施	10,124 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	【病院】基本方針である急性期医療，救急医療，健診事業を積極的に展開してきた。患者数は前年実績値を上回ることができたが目標値に至らなかった。入院診療単価は令和3年度から7万円超を維持し，外来診療単価は年々増加している。救急受診者数は救急車受け入れ年度目標を4,000台として結果，4,113台と目標を上回ることができ救急受診者が増加した。 【茂庭】在宅医療・医療と介護の連携推進の方針に従い，当施設の3事業が連携し，利用者の自立支援を軸に事業を展開した。中田，長町，八木山地区との合同研修会を実施するなど，各地域の関係機関との連携を強めたほか，当施設の強みである認知症介護やリハビリテーション，栄養管理等について機関誌等に掲載し，市民センター，各町内会等に配布した。また，地域包括支援センター等に医師，リハスタッフ等専門職の講師を派遣し，市民の介護知識等の普及，向上に努めた。	仙台オープン病院では，社会的に需要の高い専門医療をさらに強化し，救急搬送患者を積極的に受け入れ，市内の二次救急医療に大きく貢献していることは大いに評価できる。 茂庭台豊齢ホームにおいては，医療・介護連携での強みを活かし，地域住民の健康と福祉の増進に貢献できたことは評価できる。

2. 業務・組織管理	【病院】令和6年4月スタートの医師の働き方改革を含めて医師の確保に努めてきた。研修医の応募も多く6名のフルマッチが成立した。看護師採用に向けても急性期医療や救急医療の継続するために人材確保に奮闘した。今後、人材確保が大きなテーマとなるため業務内容や組織的な活動を継続するためにも人材確保に努めていく。 【茂庭】令和5年～7年を計画期間とする第4期中期経営計画に基づき、利用者確保に向けた医療機関等への営業、機関誌を通じた当施設の情報提供を行った。また、リハビリ等の強化による在宅復帰の推進により、超強化型老健施設の算定要件を今年で満たすことができた。令和5年度より「電子記録」(LIFE活用可能)を導入し、業務効率の向上を図っている。	仙台オープン病院においては、新たに呼吸器外科医や総合診療科医を採用するなど、積極的に人材確保に努めていることは評価できる。引き続き、持続的に医療を提供するための人材確保に取り組まれない。 茂庭台豊齡ホームにおいても、引き続き人材確保や利用者確保、業務効率の向上に向け、着実に取り組まれない。
3. 財務状況	【病院】前年度と比較し入院患者数、外来患者数ともに増加し、医業収益は前年比増となった。医業費用も増加したため増収減益となった。物価高騰により医薬品費、材料費、光熱水費が増加したほか、医療機器更新・購入、施設設備の維持等の費用が増加し厳しい状況であった。今後も費用増が見込まれるため、収益増を図りつつ費用の削減に取り組んでいく。 【茂庭】新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、感染管理の下、一定の稼働率は維持できた。また、通所事業は近隣の事業所が閉鎖した影響もあり、その受け皿としてのニーズも高く、増収となった。	仙台オープン病院においては、入院患者や外来患者の増加等により増収となっている点は評価できるが、物価高騰の影響により、医業費用が増加し減益となっている。引き続き受入れ体制の充実を図ることで、患者数の増加と収入増を図られたい。 茂庭台豊齡ホームにおいても、入所者数の増加等により増収となっている点は評価できる。引き続き感染症対策及び利用者確保による収益増加に努め、自立的な経営に取り組まれない。
4. 今後の方向性及び課題	【病院】物価高騰や設備関係の更新等、令和7年度においても費用増加が見込まれるが、経営企画室を新設し収入分析を行い収益増に取り組むとともに、病院全体で意識しながら引き続き費用削減に取り組む健全経営に努める。また人材確保の面においては、定年延長制度の規定整備をしつつ、人材確保に努める。 【茂庭】高齢化が急速に進む地域において安定的な施設運営を図るため、関係機関との連携強化による利用者の確保、老朽化する施設の整備による安心して利用していただける環境作り、今後、確保が困難となることが予想される介護人材の確保に向けた処遇改善等の取り組みを進めるとともに、経費削減を図り、老健施設のモデルとなるよう、地域のニーズを的確に把握しながら経営の健全化に努める。	仙台オープン病院においては、中期経営計画のもと、人材確保や費用削減に努めながら、病院経営の健全化に向けた取り組みを進め、仙台医療圏の地域医療・救急医療を担う病院として、住民から信頼される病院を目指されたい。 茂庭台豊齡ホームについても、人材確保や費用削減に努めながら、引き続き稼働率向上に取り組むなどして、地域に必要とされる施設を目指されたい。